

# 令和7年度

## 福祉行政にかかわる指定管理者評価委員会 議事録

- 日時：令和7年8月5日（火）午後1時30分から午後4時35分
- 場所：大和市保健福祉センター 5階 501会議室
- 参加  
出席委員：5名 小野委員、村井委員、北林委員、垣見委員、君山委員  
欠席委員：なし  
事務局：福祉総務課  
所管課：人生100年推進課、障がい福祉課、こども総務課、すくすく子育て課  
傍聴者：1名

### 【次第】

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 本日のスケジュールについて
4. 議題  
各施設の事業報告及び指定管理者評価（案）について  
（1）障害福祉センター松風園について  
（2）障害者自立支援センターについて  
（3）まごころ地域福祉センターについて
5. その他
6. 閉会

\*\*\*\*\* 以下、要旨記録 \*\*\*\*\*

1. 開会
2. 委員長あいさつ  
小野委員長よりあいさつ。
3. 本日のスケジュールについて  
事務局より本日のスケジュールを説明。
4. 議題  
各施設の事業報告及び指定管理者評価（案）について

## (1) 障害福祉センター松風園について

○資料 1-1「障害福祉センター松風園事業報告書」、資料 1-2「障害福祉センター松風園事業評価(案)」に基づき、指定管理者による事業報告及び所管課による評価案の説明の後、質疑応答、意見交換を行った。

※以下、指定管理者は指定と表記しています。

### <質疑応答>

- 委員：提出された事業報告書を確認して評価できる点を申し上げたい。ニコリホットは、より良い児童発達支援事業に向けた組織的な対応として高く評価できる。ヒヤリハットは数が多いからといってマイナスな評価にはならず、高い専門性の証でもある。オンブズパーソン制度を実施している点は、緊張感を持ちながら業務にあたれるため高く評価する。児童発達支援事業における待機児童の受け入れは、十分な取り組みとしてとして評価できる。次に質問になるが、ボランティアの受け入れ件数が減っているのは安全方針でのことか、または経営的な観点でのことか、どちらになるか。ニコリホットに関する事業報告に第2松風園の数字が記載されていないが、どういった理由か。次に法人全体として、施設内での見守りとしてカメラを設置しているようだが、プライバシー対策はどのようにしているか。最近では、被写体の形だけを見ることのできる電波を使ったツールもある。プライバシー対策が取れていれば問題はないが、いかがか。
- 指定：ボランティアの受け入れについて、音楽療法の際には、卒園児の保護者をお願いをしていた。コロナ禍は、電話問合せがあった時のみ受け入れを行っていた。そのため1名の受け入れ状況となっている。
- 第2松風園のニコリホットについて、夕礼でヒヤリハット、ニコリホットの報告を求めているが、ヒヤリハットのみ報告がされ、ニコリホットの報告が現状ない。今後は、ニコリホットの報告も行えるよう取り組みを続けていく。
- 委員：職員間でニコリホットを共有することは、本人支援の継続的なポイントにもなり、職員間での技術共有にもなる。ニコリホットをたくさん出した人は評価するなどしたらいいかもしれない。
- 指定：現在、カメラを設置しているのは第2松風園で、家族からの了解も得ており問題なく運用できている。作業室などに設置しており、トイレや更衣室には設置していない。
- 委員：退職者の状況についてはどうか。
- 指定：第1松風園については、女性職員が多いことから、主に介護や結婚、出産を理由とした退職である。また、保育園や幼稚園で松風園での経験等を活かしたいとの理由で退職する例もある。他には体力的な面や、給与面もある。
- 事務局：北林委員からの事前意見3点について、指定管理者から回答をお願いしたい。
- ①人件費が前年度より約550万円の減少となっており、原因として第1松風園で年度中での職員の退職、第2松風園での非常勤職員の増加が挙げられている

が、利用者へのサービス提供には問題はなかったのか。また、昨年度、常勤職員の採用に力をいれていると聞いたが、計画通りには進んでいないということか。②事業費や事務費の支出については、物価高騰の折から増加していると思うが、特に増えた費用はあるか。③アレルギー食の誤配膳は前年度もあり、発生しないように対策を取っていただきたいが、特に令和7年度は新しい職員も多くなっておりどのような対策を行っているか。

指 定：①について、第1松風園では過去に長く働いていた常勤職員を再雇用職員として非常勤で雇用したり、担当ではない職員の力を借りるなどして問題なく対応できた。第2松風園では、常勤職員を非常勤職員でまかなったため対応はできたが、個々の職員の業務量が増えた。②について、食費が高騰しており、法人全体で年間70万円程増加した。次いで電気料金が上昇している。③について、アレルギーカードも特別食カードと同じ大きさにし、誤配膳を防いでいる。また、毎朝、担任、日直、管理栄養士、調理師と確認を複数回行うようにした。加えてトレーの色も変えて見た目でも配膳状況が分かるようにしている。

委 員：ニコリホットについては、子どもたちの力の再発見、職員のモチベーション向上にもつながるので継続して欲しい。次に交流保育について、迎え入れる方も送り出す方も、児童も新しい環境で過ごすので大変な努力が必要になるが、児童の今後の生活の向上に役立つので続けて欲しい。次にボランティアについて、第2松風園の日帰り旅行で思わぬ事故についての記載があったが、そういったところでボランティアが活用できればいいと思う。また、経営面について加算を取ることにについて、職員にとっては手間がかかることだが、利用者にとっては必要な事なので是非、継続して欲しい。

<評価案についての意見交換>

委 員：評価案に「ニコリホット」や「オンブズパーソン活動」、「児童発達支援事業における待機児童の受け入れの取り組み」を追記していいのではないか。

委 員：「交流保育」についても追記してはどうか。

委 員 長：加えて第2松風園の土曜日開園についても評価して欲しい。

所 管 課：「ニコリホット」や「オンブズパーソン活動」、「児童発達支援事業における待機児童の受け入れの取り組み」を評価案に加え、土曜日開園については記載があるが、記載内容を手厚くしたい。

## (2) 障害者自立支援センターについて

○資料 2-1①「令和6年度大和市障害者自立支援センター 事業報告書」、資料 2-1②「法人単位資金収支計算書等」、資料 2-2「障害者自立支援センター 指定管理者事業評価(案)」、当日配布資料「障害者自立支援センター 令和6年度事業報告概要」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

### <質疑応答>

委員：「障害者自立支援センター 令和6年度事業報告概要」に記載のある「ピッキング検定制度」とは何か。

指 定：倉庫内の商品から出荷指示のあったものを指示書通りに集めるピッキング作業について検定を実施しており、検定を通して一人で行う作業の幅を広げることができる。

委員：同資料の就労定着支援事業に記載のある「オーダーメイドの就労支援」とは、具体的にどのような取り組みか。

指 定：利用者の年齢層や障がいの程度は幅広く、短時間の時間給での契約を希望する方や、正職員として就労を希望する方など、ニーズは様々である。利用者が働くことで充実感を得られるように、一人ひとりの希望に合わせた就労支援を行っている。

### <評価案についての意見交換>

委員：評価の視点4「様々な自主事業を通じた売り上げ」について、自主事業である「就労定着支援事業」の収入増を評価しているとあったが、指定管理業務である「就労移行支援事業」においても、昨年度の予算と比較して収入増となっているので、この点についても評価して欲しい。また、「売り上げ」という表現よりも「収入」という表現がふさわしいのではないか。

所 管 課：ご指摘の点について、記載内容を修正する。

### (3) まごころ地域福祉センターについて

○資料 3-1「まごころ地域福祉センター事業報告書」、資料 3-2「まごころ地域福祉センター事業評価(案)」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

#### <質疑応答>

委員：事業報告書の利用者の状況について、令和5年度と令和6年度で実績値が異なっているにも関わらず、内訳の割合は同じであるため、正しく修正していただきたい。また、資金収支計算書について、給食費支出の予算額を、決算額が大きく上回っているが正しい数値か。

指定：令和6年度から委託費に計上していたものを給食費に科目変更しており、決算時には、給食費にあわせて計上している。

委員：水道光熱費について、値上がりするなかで収支が130万円程プラスとなっているが何か工夫しているのか。

指定：省エネ対応のエアコン機器や照明機器への更新などを行った。

委員：人件費について、職員給料支出が予算額を決算額が大きく上回っている。職員の雇用形態を常勤化したということか。

指定：計上科目の変更を行ったためである。予算作成時には嘱託職員を非常勤として計上していたが、法人全体で常勤として計上することに変更したためである。

委員：子育てサロン利用者が増えた要因は何か。

指定：令和5年度は会場を桜ヶ丘学習センターに間借りしたため、定員を少なくし、実施していた。令和6年度は子育て支援センターに戻って実施したため、増加した。

委員：同一法人が同一場所で高齢者、子どもと対象が異なる事業を行っている強みを活かして欲しい。分野を超え、職員間の勉強会や高齢者と子どもの交流等を行い、連携を図って欲しい。

指定：盆踊りなど高齢者と子どもが交流できる場を作り、その様子の写真も広報誌に掲載している。

#### <評価案についての意見交換>

委員：地域共生社会の実現に資する施設と考えるが、多機関での連携や政策連動はあるのか。

所管課：介護保険法の制度では施設が担う役割は決められているが、地域とのつながりでいうと、包括支援センターに積極的に地域に出てもらい、生活支援体制整備事業の協議体などにも関わってもらっている。介護保険法の制度で定められたものとは異なった形で地域とのつながりを作り、連携を図っていきたい。

委員：社協とどう連携していくかも重要である。

委員長：今後の地域福祉計画の改定時にどう位置付けていくかが課題である。

委員：決算について、評価の視点4で「事業活動資金収支差額」が黒字であったことを評価しているが、「当期資金収支差額」でも黒字となっているため、評価し

て欲しい。また、決算関係の評価については前年度との比較がないと評価ができない。事業活動計算書のまとめたものをつけてもらえると評価がしやすい。事業所に伝えて欲しい。

委員 長：他の事業所も同様なので事務局から伝えて欲しい。

## 5. その他

事務局より評価の公表について説明。

## 6. 閉 会

以上